

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年11月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100690
法人名	株式会社ぶどうの木
事業所名	グループホームぶどうの木
所在地	鹿児島市中山町5286番地 (電話) 099-821-1011
自己評価作成日	令和4年10月11日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が、季節を感じて暮らせる様、季節の花々や野菜を常に植えています。元気な入居者様は水やりを一緒にされたり、野菜の収穫を楽しまれたりしています。

また、お一人お一人の生活歴、性格等を出来る限り把握し、言葉かけ、介助に活かしながら日々の生活に意欲が持てるよう支援をしています。

これまで季節ごとの行事を計画して外出の機会を取り入れてきていましたが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、施設内での行事(レクリエーション)を増やして、施設内での生活に飽きない様、生活の変化を持てるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所谷山支所から5km程離れた閑静な住宅地に平成23年に開設されており、少し離れた幹線道路にはスーパーマーケットやガソリンスタンド、コンビニ等が立ち並び、利便性は良い。開設以来、地域密着型事業所として、地域との交流に積極的に取り組んできており、町内会に加入して総会への出席や地域行事に参加し、ホームの防災訓練やイベントには地域の人や家族の参加が得られる等、円滑に交流する関係が築かれているが、コロナ禍に配慮して現在は外出を伴う交流は自粛している。住民から寄せられる認知症ケアや高齢者福祉に関する相談には施設の紹介も行いながら丁寧に対応し、日常的に利用者は周辺の散歩時には地域の人との挨拶や会話を楽しんでいる

管理者及び職員は、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いを把握しその人らしい笑顔に満ちた有意義な日々が過ごせる支援に取り組んでいる。清掃や環境の整備に努め、日課やレクリエーション等は無理強いないで、利用者の意向を尊重した柔軟な支援に努めている。また、健康管理を徹底し協力医療機関との医療連携の体制も構築されて、利用者や家族の信頼と安心感に繋がっている。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めており、日頃の業務の中やミーティング等で意見や要望を出し合い、また、職員の個人的事情等にも配慮しながら、業務の改善やサービスの向上に取り組んでいる。職員のスキルアップを図るための計画的な研修の実施や資格取得へのバックアップに努め、勤務シフトには有給休暇の取得を促進し、可能な限り本人の希望を反映させるなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し、職員が随時確認できるようにしている。	5項目からなるホームの理念は重要事項に明記し、いつでも確認できるように玄関やホール、事務所にケアの目標と共に掲示しており施設内研修も行って意義の共有を図っている。申し送りや日頃のケアの中、ミーティング等で、ケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援の実践に日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、防災訓練などの事業所の行事に参加していただく一方、事業所の行事案内を町内会にお願いし、地域の方も行事に参加されている。	町内会に加入し総会への出席や回覧板で地域の情報を把握して利用者が地域と関わりながら生活できるように行事等への参加に努めている。ホームの防災訓練や敬老会に家族や地域の人々の参加が得られ、ボランティアによる慰問や作業を受け入れるなど良好に交流出来る関係が築かれているが、コロナ禍に配慮して現在は一時帰宅、外食、イベントへの家族や友人の参加、ボランティアの受け入れ等は控えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	積極的に地域に開いた取り組みは行っていないが、地域の方々から相談があれば応じられる態勢を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からの意見、特に入居者の生活に関する意見、質問が多く、議事録を各職員に開示し、サービスにつなげている。	会議は、家族代表、民生委員、町内会長、市担当者等が出席して隔月毎に開催してきているが、コロナ禍に配慮して現在は書面会議に変更している。ホームの状況を伝えると共に毎回テーマを決めて協議しており、会議の前後に内容等を委員に返信用の記入用紙、封筒も送付して意見や要望等を貰っている。職員は寄せられた意見をミーティングで検討して運営やケアの向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の相談事を行政の担当部署に相談しているほか、介護保険更新手続きを職員が行うなどして、協力関係を築いている。	市の担当者とは電話やメール、窓口に向いて、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症予防に関する協議、生活保護受給中の利用者（4人）の処遇に関する連携等を密に行って助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。Zoomによる市主催の会合や研修にも積極的に参加して運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する内部研修を3ヶ月おきに行い、身体拘束に関して疑問が生じたら、各職員間で話し合っている。	身体拘束については運営規定や重要事項、利用契約書に明記され、ホーム独自の研修を計画的（年4回）に実施して認識を共有している。ミーティングや日頃のケアの中で振り返りや意見交換等を行い、尊厳や個性、利用者の習慣等を大切にしたい拘束の無いケアに取り組んでおり、適正化を図る指針を整備し委員会も年4回開催している。利用者が不穏な状況や外出したがる時は職員と周辺を散歩して安定を図る等、日常的に気付きに努めて拘束の無い生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2、3回の頻度で虐待防止についての研修を実施し、虐待についての理解を深め、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、権利擁護に関する制度を利用している入居者はいらっしゃらないが、内部研修にて各職員が制度について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書類は職員、ご家族で読み合わせ、その都度、不明な点がないか確認をとっている。改定の際も各ご家族にご意見がないか文書にてご意見を募っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置している。また、ご家族、入居者様から直接意見を頂くこともあり、申し送りノートに内容を記入することで、各職員で内容を共有している。	利用者や家族には、日頃から気軽に意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、「ご意見箱」の設置等で、また、写真を掲載した「ぶどうの木便り」で利用者の状況を伝えながら意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望等はミーティング等で検討して改善を図り、それらの結果は家族にも伝えている。現在、コロナ禍により家族会は中止している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングなどで各職員、管理者で意見を交換し、運営に反映している。	管理者及び職員は、日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めている。日常の業務の中や申し送り、ミーティング時に意見や要望を出し合い、必要に応じて個人面談等で業務に関する悩みや相談等も把握して業務やサービスの向上を図っている。管理者は、日常的にケアへの助言・指導や研修を実施し資格取得へのバックアップにも努め、勤務シフトには有給休暇の取得や健康状態、個人的事情等も配慮する等、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に合わせて勤務体系、休日を設定し、働きやすい環境を整えている。外部研修や資格取得の機会を設け、技術や意識の向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の受講の機会を、各職員の技術、知識に応じて設定している。施設内での研修も毎月行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修などで他施設と情報交換する機会を設け、サービスの質の向上に繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にホームの見学をお勧めし、職員と顔合わせがてら、入居に際しての不安なこと、要望などをうかがっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホームのご本人とともに、見学をお勧めし、職員と顔合わせがてら、入居に際しての不安なこと、要望などをうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に本人、家族と面接を行い、ケアマネジャー等からも情報を頂き、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできることを見極め、洗濯や調理などの手伝いをお願いし、役割を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の面談にてご家族の意向を尋ね、職員や施設の意向が優先されないよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの方の面会を歓迎し、居室などで、ゆっくり語らう時間を作るよう配慮している。	利用者毎の馴染みの人や場を把握し、家族の意向も確認しながら支援している。コロナ禍に配慮して家族との面会は玄関内（ビニール越し）で実施し、外食や家族との会食、ドライブ、墓参、一時帰宅、訪問美容等は控えている。電話や手紙の取り次ぎに努め、写真を添付した「ぶどうの木便り」の送付等工夫して関係の継続に取り組んでおり、携帯電話を所有している利用者は家族や友人との会話を日常的に楽しんでいる	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席を考慮し、気の合う利用者同士で過ごせるよう配慮し、孤立しがちな利用者にも職員から積極的に声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの生活状況をまとめ、転居先での新生活に繋がるよう支援している。相談事なども退去後も受け付けていることを入居者や家族に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際には本人の意向を聴き取るよう心掛け、それ以外のときに意向が聞き取れたときには記録に残すように心がけている。	会話やコミュニケーションが困難な利用者は現在はいないが、利用者の思いは日頃の会話や仕草、表情等から汲み取り、家族にも確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるように努めている。利用者の意向に沿って新聞やテレビの視聴、計算ドリル、貼り絵、ぬり絵、マッサージ等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価の言葉を添えて、自己肯定感の習得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に本人の生活歴について本人や家族に尋ねるよう心掛け、入居後も生活歴など聞き取れたときには記録に残すように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネジャーを中心に状態把握に心掛け、申し送りを通して、各職員が把握できるよう体制を整えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントの際はケアマネジャーだけで作成せず、各職員に意見を聴き取り、より具体的な介護計画ができるよう努力している。	利用者や家族の思いを把握し、主治医の指示やモニタリングやミーティング時の職員の意見を基に改善点等を確認し、習慣や楽しみ事にも配慮した介護計画を作成している。計画は定期的な見直しのほか、状態の変化時には計画を実態に沿って変更して改善に取り組んでおり、その都度、家族の理解も得ている。ケアの実施状況は「業務日誌」や「身体状況記録」「申し送りノート」等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記録するだけでなく、気づき等あれば、申し送りを行い、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気分転換や受診のための外出など、ニーズに対応して、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長や民生委員、消防署などと連携を図り、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望による個々のかかりつけ医と連携をとり、定期的に往診もしくは診察を受けている。	利用者毎の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受診を支援している。殆どの利用者が協力医療機関を主治医としており、定期的な訪問診療と必要に応じて訪問看護が実施され、また、専門医の受診は家族と連携して同行するなど適切な医療が受けられている。日常的に健康管理が徹底され、病状の変化時の対応や協力医療機関との医療連携体制も構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の気づきは所定の申し送りの用紙に記入し、月2回の訪問診療の際に看護師、医師に伝えられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は職員が時間をみつけて病院の様子伺いに出かけ、担当の職員と話し、情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医を交え、現状と今後について解説頂きながら、ご家族と話し合う機会を設けている。</p>	<p>重度化や終末期の対応指針を整備し、入所時や必要に応じて本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で主治医から病状が説明され、家族と十分に話し合っ可能な限り希望に添った支援に取り組んでおり、看取りも実施している。急変や応急手当、看取りに関する研修も計画的に行って職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応はマニュアル化にて職員共有事項としている。応急手当や初期対応の訓練は毎月行われる施設内研修の場を使って定期的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルを整備した上で、年に2回、災害訓練を行っている。町内会とも防災訓練を行い、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回（1回は消防署立ち合い）夜間も含む火災や風水害の災害を想定した通報や避難訓練、消火訓練を実施し、消防職員による災害に関する講話や消火器等の取扱い等の研修も行っている。報道された災害事例を基に意見交換するなど、日頃から災害対策の認識を深め、地域との協力体制も築いている。スプリンクラーや自動通報装置等を設置し、連絡網を整備し、災害時の卓上コンロ、ラジオ、食料・飲料水等もチェックリストを作成して備えている。ホームのBCP（業務継続計画）については、次回のミーティングで全職員への研修を計画しており、分担して策定作業に取り組むこととしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉かけや対応はマニュアル化して職員共有事項としている。毎月行われる施設内研修の場を使って振り返りも行っている。	人格の尊重やプライバシーの確保等については毎月のミーティング等で研修や振り返りを実施して適切なケアの実践に取り組んでいる。利用者の習慣や思い、特性を大切に、尊厳を損ねる言葉や対応を行わないように日々努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーの確保に配慮した構造になっている。衣服の選択や起床、食事、入浴等の時間も柔軟に対応するなど利用者の思いや自己決定を尊重している。利用者に関する帳票等は、施設できる書棚で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけをしている	日々のケアの中で本人の意思を尊重し、声掛け、見守り、意思の表出へ支援している。難聴の入居者へは筆談などの工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床、食事等は所定の時間を設定しているが、本人の体調や希望などに配慮し、変更できるなど、個人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類については介助の必要な入居者も希望を聞きながら更衣の介助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の希望などに沿って、きざみ食や粥食も提供している。入居者に希望を聞いて献立を作ることもある。	日頃から好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け等に配慮し、菜園で収穫した野菜の利用やアレルギー対応の一覧表を調理場に貼る等細かに気遣って調理している。お節や節句、誕生日などの行事食や、敬老会の仕出し、手作りのおやつ（いこ餅、ゼリー、スイートポテト他）等、食事が楽しみとなるよう工夫し、利用者も食材の下処理や片付けを楽しみながら一緒に行っている。現在はコロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参の外食等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	水分量、食事摂取量を全入居者 とも記録し、不足のないように している。不足しがちなとき は、本人の好みのものを提供す るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	歯科の助言をもらいながら、食 後には各入居者の口腔ケアの介 助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	必要な入居者については、排泄 時間を記録し、トイレで排泄で きるよう支援している。	各利用者の排泄パターンを把握し、身体 の状況や習慣等に配慮した声掛けで、可 能な限りトイレでの排泄を支援してい る。利用者の状態に応じた介護用品やケ アの方法を介護計画に反映させて取り組 んでおり、殆どが布パンツとパットの使 用で対応できている。また、便秘の予防 のため植物繊維の多い食材や食事、水分 の摂取量、運動に配慮し、状況によっ ては主治医にも相談して改善を図ってい る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	毎日のバイタル測定時、また介 助時に排便の状況を確認し、水 分、食事量、薬の調整を行い、 必要に応じて医師へ相談、対処 している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴日を設定しているが、体調を崩すなどして入浴できなかった場合は入居者の希望に沿って柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としているが、必要に応じて温タオルやシャワー浴等で清潔を保っている。入浴の温度や時間、入浴剤、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんで貰っており、入浴後は水分補給や保湿剤の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いないで、時間の変更や声かけ等の工夫で、気持ちを汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しながら、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援、声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が、入居者の服薬情報に目を通し、薬の目的を把握している。症状の変化があれば所定の用紙に記入し、主治医に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や能力に合わせた個別レクリエーションを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出できないことを考慮し、施設内での行事（レクリエーション）を増やして、施設内での生活に飽きない様、生活の変化を持てるようにしている。	利用者の状態に応じた歩行介助で園庭での日光浴や周辺の散歩を日常的に実施している。利用者の希望を汲み取りながら買い物や通院時のドライブで景色を楽しむなど個別に支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して一時帰宅、外食、墓参、ドライブによる花見等は控えている。室内での軽い体操や輪投げ、お手玉遊び、音楽・ビデオの視聴等工夫した取り組みでリフレッシュに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事故防止の観点から、小遣いをホームにて管理しているが、入居者から買い物依頼があれば、職員が買い物に行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば施設の電話から電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用のホールからは季節の花々が楽しめるように工夫している。照明や空調は入居者に合わせて調整している。</p>	<p>ホーム全体が明るく余裕ある広さが確保され、坪庭を囲むように居室等が設置されている。ホールは掃き出し窓でテーブルセットやテレビ、ソファ等が動線や利便性を考慮して配置され、利用者の作品、活け花等が飾られている。園庭には多種の樹木や草花、野菜等から植えられて四季が感じられる等、和やかで落ち着いた雰囲気となっている。清掃、整頓が徹底され、空調、異臭、感染予防にも細かに配慮して、快適に過ごせる環境整備に取り組んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用のホールには各入居者の座席だけでなく、誰でも座れるソファなどを設置し独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には自宅から好みの物を持ち込み、安全に配慮しながら設置できるようにしている。	居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保され、ベッド、エアコン、タンス、洗面台が備えられている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、家族写真、冷蔵庫、ポット、ラジオ等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に落ち着ける雰囲気の居室となっている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	ホームの廊下は車椅子や歩行器でも通れる幅にし、表示することとトイレ、浴室等を分かりやすくしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない